

自己評価報告書

平成23年 5月15日現在

機関番号：34313

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720013

研究課題名（和文） 東アジア仏教論理学史研究のための逸文データベースの構築

研究課題名（英文） Development of Database for the fragments of East Asian Buddhist logic.

研究代表者

師 茂樹 (MORO SHIGEKI)

花園大学・文学部・准教授

研究者番号：70351294

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学／印度哲学・仏教学

キーワード：因明、論理学、人文情報学、テキストデータベース

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、東アジアにおいて独自の展開を見せた仏教論理学(因明)を研究するための基盤となるテキストデータベースとそれを閲覧・分析するためのシステムを構築することである。

近年、東アジアの唯識思想や因明が世界的に再評価される中、いくつかの基本文献を除くと多くの重要な文献が散逸していることが、研究の障害となっている。したがって本研究では、研究上必要となる文献群をテキストデータベースとして集成し、逸文の再構成や引用・被引用関係の可視化、論理式の比較分析などを容易にできるようなシステムを開発・公開することで、今後の因明研究の基盤となるような環境を構築することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

テキストデータベースの構築においては、従来電子化されてこなかった『大日本仏教全書』や『日本大蔵経』等で活字化されている鎌倉時代以前の因明文献について、基本的な電子テキスト化が終了している。今後これらについて校正・編集等を施した上で、順次公開していきたいと考えている（電子化は中国の企業に依頼したため、返り点や送り仮名など、一部不正確な部分が含まれており、現時点では十分な品質とは言えない）。

テキストデータの公開においては、現時点では **Mediawiki** 上に、人名や文献情報などのメタデータと統合された形で行っている。逸文の半自動的な再構成は、研究代表者が開発に参加した N グラムモデルによる文献比較

システムや、**Mediawiki** の相互リンク支援機能を用いて、順次行っている。引用・被引用関係の可視化についても同様に **Mediawiki** のリンク機能を用いて順次マークアップを行っている。現在、これと並行してより柔軟な逸文調査のためのテキスト表現モデルについて検討中である。

論理式の形式化による比較分析については、現在、因明が多値論理学と同様のシステムを持っていることの見当が付きはじめた段階であり、計算機上での形式化には至っていない。

以上の調査・研究・開発を通じて、古典文献のデジタル化や数理的分析、因明そのものの研究などが進んだので、それらについては研究発表を行っている。また、海外（韓国・ドイツ）の仏教研究者や、他分野（数理哲学、日本思想史）の研究者との交流により、因明の本質に関する研究が大きく進展した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

テキストデータベースの構築については、当初予定していた文献を予定通り電子化することができた。公開については、メタデータの表現方法について作りなおすなどしたため、若干予定より遅れたものの、順次公開の段階に入っており、これも予定通りであると言える。

因明の論理式の形式化については、当初想定していた形式ではうまくいかなかったものの、非古典論理との比較研究が進み、その方向での形式化を検討することができるようになった。遠回りになってしまったが、重要な進展ではないかと自己評価している。

また、当初の研究計画中にはなかったものの、データベースの開発等を通じて、因明そのものの研究を進めることができた。

4. 今後の研究の推進方策

テキストデータベースは、今後も順次公開や校正、マークアップ等の作業を継続する。

因明の形式化については、学会発表などを通じてさらなる検討を継続するとともに、計算機上での形式化について試みる。

また、因明そのものについての研究発表が平成 23 年度以降にも予定されているので、それらを通じて研究成果を発表していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 7 件)

- (1) 師茂樹「徳一の三時教判に基づく法華経解釈」(『印度学仏教学研究』59-1 (122)、2010 年、pp. 58-65、査読有)
- (2) 師茂樹「異なる文献間の数理的な比較研究をふり返る」(『文字と非文字のアーカイブズ/モデルを使った文献研究』、2011 年、pp. 31-38、査読無)
- (3) 師茂樹「元暁の唯識比量解釈 — E. Franco 氏の説と比較しつつ —」(『元暁学研究』15、2010 年、pp. 101-116、査読有)
- (4) 師茂樹「GraphText 紙テープに呪縛されないテキストデータの試み」(『漢字文献情報処理研究』10、2009 年、pp. 17-22、査読有)
- (5) 師茂樹「東アジア因明文献データベースの構想とプロトタイプ作成」(『人文科学とコンピュータシンポジウム論文集』[情報処理学会シンポジウムシリーズ Vol. 2008, No. 15]、2008 年、pp. 17-22、査読有)

[学会発表] (計 7 件)

- (1) 師茂樹「異なる文献間の数理的な比較研究をふり返る」(公開シンポジウム「文字と非文字のアーカイブズ/モデルを使った文献研究」、2011 年 2 月 18 日、京都大学人文科学研究所本館 101 セミナー室)
- (2) 師茂樹「元暁の因明について — 唯識比量の解釈を中心として —」(2010 年度 第 15 回 元暁學研究院 學術大會「元暁學の諸問題 II」、2010 年 11 月 12 日、韓国・仏国寺文化会館)
- (3) 師茂樹「徳一の三時教判に基づく法華経解釈」(日本印度学仏教学会・第 61 回学術大会、2010 年 9 月 10 日、立正大学)
- (4) 師茂樹「東アジア因明文献データベースの構想とプロトタイプ作成」(じんもんこん:-) 2008 人文科学とコンピュータシンポ

ジウム、2008 年 12 月 21 日、筑波大学・つくばキャンパス)

- (5) 師茂樹「紙テープに呪縛されないテキストデータベース構築の試み」(漢字文献情報処理研究会第 11 回大会、2008 年 12 月 14 日、慶応義塾大学・日吉キャンパス)

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

- 出願状況 (計 0 件)
- 取得状況 (計 0 件)

[その他]

- (1) Eli Franco (訳・解題: 師茂樹)「玄奘による観念論 (*vijñaptimātratā*) の証明」(『花園大学文学部研究紀要』第 43 号、2011 年、pp. 87-112、原文: Eli Franco, “Xuanzang’s proof of idealism (*vijñaptimātratā*).” *Hōrin: Vergleichende Studien zur japanischen Kultur*, Vol. 11, 2005)